

2017年 12月

通号72号

障がい学生支援室だより

学生総合支援センター 障がい学生支援室 発行



パラリンピック東京大会まで、あと 1,000 日になったという報道が、11月29日にありました。

今回は、パラリンピックで行われる種目について、いくつかご紹介します。この機会に学びを深め、みんなでパラリンピックを盛り上げていきましょう。



パラリンピック 2020 東京大会の競技種目

◆実施される様々な競技

2020年に、我が国でオリンピックとパラリンピックが開催されることになっています。今回はそのパラリンピックで実施される競技について、取り上げてみたいと思います。まず、どのような競技があるのかというと、

アーチェリー・バドミントン・ボッチャ・カヌー・自転車競技・馬術・5人制サッカー・ゴールボール・柔道・パラ陸上競技・パラパワーリフティング・パラ水泳・ボート・パラ射撃・シットイングバレーボール・卓球・テコンドー・トライアスロン・車いすバスケットボール・車いすフェンシング・ウィルチェアーラグビー・車いすテニス、以上の **22 種目** の競技が行われることになっています。★

オリンピックで行われている競技だけではないため、なじみのない競技もあるのではないのでしょうか。

パラリンピックに向けて、障がい者に限らず、パラ競技を体験できる機会が増えてきています。今後は、障がい学生支援室でも、パラ競技に親しむことができる会を考えていますので、ぜひ参加し、みんなでパラリンピックを盛り上げていきましょう。

◆ボッチャ

ボッチャは、肢体不自由者も参加できるように考えられたスポーツで、目標となる白玉に向かって、赤玉と青玉を投げたり、転がしたりして、どれだけ白玉に近づけられるかを競う競技です。障がいによって、手で投げることができない選手は、足で蹴ることや「ランプ」と呼ばれる滑り台のような用具を使うこと等も認められています。

ボッチャの起源は、古代ギリシャ時代ともいわれ、パラリンピックでは、1988年のソウル大会から正式競技となりました。



◆ゴールボール

ゴールボールとは、主に視覚障がい者のために考案されました。3人の選手が目隠しをして、鈴が2個入ったボールを相手のゴールめがけて転がします。

攻撃と守備を1プレーごとに交代しつつ試合が進められます。音が頼りですので、試合中は観客も音を出さないように観戦することが特徴です。



◆シットイングバレーボール

シットイングバレーボールは、床に臀部（でんぶ）をつけたままの姿勢で行うバレーボールです。ネットが低く設定されているのが特徴です。

サーブ、スパイク、ブロックの時は、臀部を床から離すことはできませんが、レシーブの時だけは、一瞬、床から離すことが認められています。



【参考文献】

東京都オリンピック・パラリンピック準備局ウェブサイト

<https://www.2020games.metro.tokyo.jp/> (2017年11月)

ご紹介

ヘルプマーク普及の取り組み



みなさんは、左のようなマークをご存じですか。「障がい学生支援室だより」2016年度12月号でも、ご紹介していますが、2012年に東京都で作成されたものです。

このマークは、義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、または妊娠初期の方など、「外見からはわからない」支援を必要としている方々が、周囲の人に配慮を必要としていることを知らせることで、支援を得やすくするために作られました。

現在は、全国的にも徐々に浸透しつつあります。岡山県内では、浅口市、井原市、新見市、総社市、里庄町、高梁市、矢掛町、真庭市、笠岡市の7市2町で、すでに導入されています。11月27日には、瀬戸内市、12月5日には津山市も導入されました。岡山市は2018年度の配布に向けて準備を進めている状況です。

このマークを身につけていて、困っている様子がある方を見かけたら、声をかける等、思いやりのある行動をお願いします。

ご案内

「さまざまなセクシュアルマイノリティについて、知る。考える。6th」

【会場】岡山大学津島キャンパス 創立五十周年記念館 金光ホール
 【日時】2018年1月9日（火）16:30～18:00（受付16:00～）
 【演題】「日本社会とLGBTの可視化問題」
 【講師】トランス女性、パンセクシュアル、工学系研究者
 平尾 春華（ひろお しゅんか）氏

【対象者】岡山大学教職員・学生および一般の方

【申込方法】E-mail: campuslifeseminar.uketsuke.ou@gmail.com まで
 「氏名・所属・連絡先」を明記してお申し込みください。 ※参加費無料

報告

出前授業

障がい学生支援室では、11月16日（木）3、4限に教養教育科目「死と生をみつめるー看取りの現場に向かう人文学」（文学部・本村先生担当の授業）で、出前講座を行いました。

今回は、120分の授業の中で、受講生のみなさんに一般教育棟周辺のチェックポイントを車いすで巡ってもらい体験や高齢者疑似体験セットを身につけて移動してもらい体験を行ってもらいました。（以下、受講生みなさんの感想です）



【高齢者疑似体験】

車いすの操作が難しく、坂やせまい道といった障害物の負担が大きかったです。



【車いす体験】

階段の一つ一つが、いつもより大きく感じ、人の声は遠くに聞こえ、何回もつまづいてしまいました。

岡山大学

学生総合支援センター

障がい学生支援室

【場所】一般教育棟D棟1階

【開室時間】月～金：10:00～12:00／13:00～17:00

【連絡先】086-251-8553（支援室受付）

【E-mail】shien-dr@okayama-u.ac.jp

